

第10回能代市総合計画市民協働会議

日 時 平成24年3月26日（月）

午後7時

場 所 能代市文化会館 中ホール

会 議 概 要

1 開 会

2 委員長あいさつ

柴田委員長から、会議の開催にあたってあいさつがありました。

3 市の対応状況について

事務局から、昨年11月に市長に対して提出したまちづくり提案に対する市の対応状況について報告がありました。

4 各グループでの意見交換

市の対応などをもとに、今後、能代をより良い地域にしていくため、総合計画の将来像「わのまち能代」の実現に向けて、このあとの皆様の活動や市の取組につながるような話し合いの場とする趣旨で、これまでと同様に、各グループ及び全体会での意見交換を行いました。

5 全体会での意見交換

提案26について、病院や診療所の役割分担について、疲弊している救急医療等の現状を鑑みて、市と医師会が連携を強化し、一緒に制度の改善・再構築できる場を創出すべきとの意見があり、市では対応の内容で十分お答えできていない状況にあることから、医師会等とも相談しながら検討させていただきたいとの説明がありました。

このほか、全体会で出された質問等について、後日回答を行うこととしたものについては別紙のとおりです。

6 市長あいさつ

齊藤市長から、委員との意見交換にあたってあいさつがありました。

今後の能代市のまちづくりについて、市民協働会議からの提案にもあった若者の定住につながる雇用確保や産業の創出については、引き続き市の最重要課題の1つ

として、例えば再生可能エネルギー関連事業などの可能性を探りながら取り組みを進めたいと考えている。また、市民の一番の願いは健康であるとの考えから、市の保健センターでの検診のほか、豊かな自然環境を活用した健康づくりや、健康に良い食を通じた事業展開などについて、思いを述べました。

終わりに、ふるさと能代が一步でも活性化に向けて前に進むことができるよう、市民の皆様方のご協力をお願いしました。

7 市長との意見交換

市民・団体・行政など、さまざまな分野での連携の必要性について意見があり、市長から、行政だけでなく、市民の皆様や団体、企業など、できる限り関係者が集まって話をしていくことが重要だと考えており、そのように取り組んでいけるよう努力したいとの説明がありました。

また、地域医療、特に救急医療の分野に山積している問題に対して、医師会のほかにも、市民や行政と要望を出し合えるような機会の創出について意見があり、市長から、医師不足が地域医療の大きな課題だが、国・県に対して要望をしていくだけでなく、市として何ができるかを考え、医師会や市民の皆様と話し合っていくことが必要であり、そういった機会を作れるよう努めていきたいとの説明がありました。

また、組織同士が集まってもなかなか物事が進みにくい現状を鑑み、現場を熟知し、実際に動いている人たちが集まって、さまざまな課題に対して現実的に動き、それに対するサポート体制等の仕組みづくりの必要性について意見があり、市長から、実際に動いていくための仕組みづくりには、現場を熟知している方の参画は必要と考える一方で、現場を熟知していなくても関心のある方などが参画することで、視点を変えて考えていくこともまた必要と考える。問題はそこから一步踏み出して、誰がどうやって実行していくかということで、今、一番足りないと感じている部分でもある。今後、どのように進めていけるのか検討していきたいとの説明がありました。

このほか、エネルギーの地産地消や、健康に関することなどは、全体として地域や人を活性化しようとする発想が原点にあると理解しているのかとの質問があり、市長から、あいさつの際はエネルギーや健康分野について触れたが、このほか、「木都」としての「きづかい（気遣い・木使い）」や、「バスケの街」など、地域の良さにこだわり、地域に住む我々が自慢できるものを作っていきたいと考えており、「こだわり」をもう一つのキーワードとして、市政を推進していきたいとの思いを述べました。

8 その他

最後に、今年度の会議の締めくくりとして、柴田委員長、安部副委員長からそれぞれあいさつがありました。

9 閉会